

## 序 文

公共養成訓練発足以来17年、数十万の若人がこの制度を経て産業界に入つて行つた。彼らが今日どのように位置づけられ、どのような思いを抱いているかは本制度関係者のひとしく関心を抱く所であろう。本報告は総高訓を対象としたこれら公共養成訓練修了生調査の一環として、企業側の眼を通した修了生の実体である。

本報告の内容は極めて多岐に亘っているが、特に、工高、高専あるいは一般高校の学卒者と訓練校修了生との比較に力点が置かれている。過去において、修了生に関する調査は無いわけではないが、このような観点で突込んだものは筆者の知る限り皆無のようである。その結果、例えば訓練校修了生はその能力において高い評価を受けながらも、その「訓練歴」は「学歴」に匹敵する処遇上の評価を企業から受けていないことを改めて確認できた。それは公共訓練の「訓練歴」と云う公けの資格の意味が「学歴」と同等には機能していないことを示している。

本報告にはその他高卒訓練修了生の評価の問題、一般教養の問題など注目すべき事項が少くない。これらの諸点を通じて感ずることは、今後の中卒者に対する公共養成訓練の我国における意味付けについて、関係者の徹底した論議と合意が必要であろうと云うことである。

本報告が職業訓練関係者各位の諸々の判断資料として活用されることを心から望みたいと思う。

昭和50年3月

調査研究部長

宗 像 元 介

発 行 昭和50年3月13日

発 行 者 職 業 訓 練 大 学 校

調 査 研 究 部 長 宗 像 元 介

職 業 訓 練 大 学 校

神奈川縣相模原市相原1960

TEL (0427) 61-2111